

食道異物縫針ノ1例

金澤醫科大學耳鼻咽喉科學教室(主任松田教授)

富山縣産業組合病院耳鼻咽喉科

醫學博士 豊田 文 一

Bunichi Toyota

(昭和17年12月3日受附)

畏友倉知典志博士ノ昇任ヲ祝シ、本文ヲ同博士ニ呈シ將來ノ健闘ヲ祈ル。

内 容 抄 録

71歳ノ女子ニ於ケル食道異物縫針ノ1症例ニシテ、異物ハ食道入口部直下ニ刺入シ、將ニ食道壁外ニ逸脱セントセルヲ食道鏡下ニ抽出ニ成功シタモノデ、食道

異物ニ際シテハ早期ニ食道鏡検査ヲ行ヒ、然ル後適當ナル處置ガ加ヘラルベキデアルコトヲ強調シタイ。

目 次

緒 言
症 例

考 察
結 論

緒 言

食道異物トシテノ縫針ハ稀有ナモノデ、笹木教授ノ報告シタ明治40年—大正12年間ニ於ケル九大耳鼻咽喉科教室ノ統計323例中3例、又明治42年—昭和6年間ニ於ケル本邦文獻ノ統計508例中5例ヲ數フルニ過ギナイ。

著者ハ最近71歳ノ老女ニ於テ縫針誤嚥ノ1症例ヲ得、而モ嚥下運動ニヨリ將ニ食道壁外ニ逸脱セントスルヲ食道鏡下ニ抽出セルヲ以テ茲ニソノ概要ヲ記載シ、本邦文獻ニ追加セント思フ。

症 例

患者 北某, 71歳, ♀.

初診 昭和17年10月30日.

主訴 嚥下痛.

現病歴 10月29日朝飯ヲ喫シ居ル際、飯塊嚥下ト共ニ突然食道入口部附近ニ激烈ナ疼痛ヲ感ジ、殊ニ嚥下時ニ於テ甚シイ。患者ハソノ時疼痛ノ甚シイコトヨリ、米飯中ニ釘ガ混入シ、食道ニ刺入セルモノト思ヒ、直ニ附近ノ醫師ヲ訪ネ、診ヲ乞フヲ所、同醫師ハ本院ヲ紹介シ、之ガ治療ヲ依頼シ來ツタモノデアル。

現症 患者ハ胸骨上端附近ノ左側内部ニ於テ常ニ激

痛ヲ訴ヘ、殊ニ嚥下時ニ於テ甚シイ。口腔所見ハ總義齒ヲ装着シテ居ルガ、粘膜面ニ變化ナク、又咽頭ニモ著變ヲ認メナイ。喉頭鏡検査ニ於テモ舌根、舌谿及ビ梨子状窩ニ異物ヲ認メナイ。

「レ線検査ヲ行ヘルニ食道入口部ノ稍下部ニ於テ左側ニ偏シ横位ニ近キ斜位ヲトレル針様物ノ介在シ、食道壁深ク刺入シ、左右位ニ於テハ氣管壁ニ迄達セリト考ヘラル異物ヲ發見シタ。(第1圖)

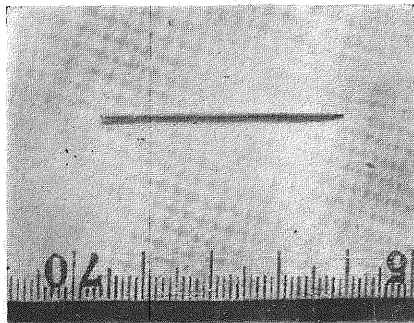
依ツテ仰臥位、局所麻酔ノ下ニ直達鏡検査ヲ施行ス。

豐田論文附圖

第 1 圖



第 2 圖



食道入口部ニ變化ナク、且ツ異物ヲ認メナイ。入口部ヲ越シ食道鏡ヲ進メルヤ、直ニ針狀物ノ食道左壁ニ斜ニ刺入シ、略々横位ニ近い位置ヲトリ、俗ニ針ノ耳ト稱セラレル部位ヲ僅カニ約0.5cm位露出シテキルノヲ認メタ。直ニ之ヲ鉗子ヲ以テ保持シ、左右ニ動搖セシメツ、拔去セントシタ所容易ニ成功シ、之ヲ食道

鏡内ニ收メ、何等ノ副損傷ヲ起スコトナク抽出スルコトガ出來タ。

抽出シタ異物ハ僅カニ錆ビタル縫針ニシテ、長さ3.6cm、完全ナ形態ヲ保ツテキルモノデアアル。(第2圖)

患者ハ約2日間軽度ノ嚥下痛ヲ訴ヘタガ、其後全く障礙ナク全治退院シタ。

考 察

前述シタ如ク、本例ハ71歳ノ老年ノ女子ニ經驗シタ食道異物縫針ノ1症例デアアルガ、本邦文獻ニ於テ稀有ナルモノニ屬スベキモノデアルト考ヘラレル。ソノ誤嚥動機ハ患者ハ老齡ニシテ上下顎總義齒ヲ装着シ、食事ニ際シ、咀嚼時異物感覺ノ鈍麻アリ、此ノ如キ尖锐ナ異物モ瞬時ニシテ嚥下シ、不幸食道上部ニ刺入シタモノト思ハレル。

食道異物ト年齢トノ關係ニ就キ笹木教授ノ787例ノ統計ニミテモ、3、4、5歳ニ最モ多ク、20歳ヨリ30歳代ノ粗暴ナル年代ニ至ルニ從ヒ増加シ、35歳ヨリ45歳ノ壯年期ニ著明ニ増加シ、又55歳ヨリ老齡ニ進ムニ從ヒ再ビ増加ヲ示スモノデ、コレハ義齒ヲ使用スルモノノ多イノト、齒牙ノ鈍麻、注意力ノ減退ニ起因スルト述ベテキル。

飲食物ハ頰咽喉性嚥下運動ニヨリ食道口ヲ通ジテ頸部食道迄送致セラレ、流動物ハ其ノ重力ニヨリ直チニ噴門ニ達スル。此ノ際蠕動ヲ認メナイ。併シ何等カノ障礙ガ存シ、コレガ液體又ハ固形食物ノ重力ニヨリ下行ヲ妨ゲル時ニハ蠕動ニヨリテ食物ハ噴門迄送致セラレル。此ノ際食道内容(食物)ハ食道壁ノ緊張ニヨリ周圍ヨリ

接着セラレル、殊ニ食物ガ通過困難ナル場合ニ於テ最モ著明ニ現ハレル。本例ノ如キ縫針ノ刺入ニ際シ、食道壁ニ對スル刺戟ト異物ノ下行不能ハ強イ蠕動ヲ惹起シ、食道壁緊張ニヨリ周圍ヨリノ接着ハ漸次深部刺入ノ動機トナリ、將ニ食道壁外ヘ逸脱セントスルニ至ツタモノデ、食道内介在長期ニ亙ル時ハ周圍組織内ヘノ迷入モ想像セラレル。

最後ニ食道異物ノ治療ニ就キ一言センニ、古來ヨリ民間ニ行ハレル口内深ク指ヲ入レ、吐逆作用ヲ誘發セシメ、且ツ背ヲ叩キ異物ヲ吐出セントスル如キ、或ハ飯塊又ハ蒸芋ヲ嚥下シ、ソノ力ヲ以テ異物ヲ押し下ゲントスル如キハ小異物ニハ時トシテ胃内ニ落下セシメ得ルガ、大ナルモノデハ効ナキノミナラズ。本例ノ如キ極メテ尖锐ナルモノハ粘膜炎深ク潛入セシメル虞ガアル。即チ食道異物ニ於テハ「レ線検査ノ補助ニヨリ、造影可能ナルモノニ於テハ其ノ形狀、嵌入状態ヲ確實ニシ、然後食道鏡検査ニヨリ直接異物ヲ明視シ、適當ナル異物鉗子ヲ以テ抽出スルハ最モ合理的デアリ且ツ安全ナ方法デアルト信ズル。

結 論

本症例ハ上下顎總義齒ヲ装着シタ71歳ノ老婆ノ飯塊中ニ混入シタ縫針ヲ誤嚥シ、食道上部ニ刺入、將ニ食道壁外ニ逸脱セントスルヲ食道鏡下ニ抽出シタモノデアアル。

尙食道異物ノ治療ニ當リテハ盲目的處置ハ絶

對ニ避ク可キモノニシテ、早期ニ食道鏡下ニ抽出スルガ最モ理想の方法デアルコトヲ強調シタイ。

撰筆スルニ當リ松田教授ノ御教示並ニ御校閲ニ對シ深甚ナリ謝意ヲ表ス。